

1. 「平成 30 年 3 月度 修習技術者研修会報告」

2019.3.17

修習技術者支援委員会
委員 天沼 聖司

川県、埼玉県、千葉県の関東地区だった。(図 1)。

参加の動機は、①テーマ・講師に興味と②修習の一環の 2 つが同数でもっとも多い(図 2)。

2. 研修セミナー概要

日時 平成 30 年 3 月 9 日(土)
10:00～18:00

主催 公益社団法人日本技術士会
修習技術者支援委員会

会場 機械振興会館 B3 研修 2 会議室

テーマ キャリアプランセミナー

～日本を変える技術士を目指す～

3. 研修セミナースケジュール

キャリアプランセミナー 司会・進行	阿部 副委員長
開会挨拶	10:00～10:05 石附 委員長
セミナー概要説明	10:05～10:10 阿部 副委員長
キャリアプランの説明	10:10～10:35 石附 委員長
キャリアプランの説明補足	10:35～10:48 阿部 副委員長
グループ討議 1 「なぜ技術士になりたいのか」	10:48～11:40
講演:「負けじ魂 ～技術士取得前の経験と取得後の自己革命」	11:40～12:25 講師: 広田憲亮氏 技術士(金属部門、機械部門)
質疑	12:25～12:30
昼食、グループ討議 2 「キャリアプランの検討」	12:30～15:30
グループ発表まとめ	15:30～16:30
グループ討議結果の発表、コメント、アドバイス	16:30～17:30
講評、閉会挨拶	17:30～17:40 野村 副委員長
情報交流会	18:00～20:00

4. 参加者

今回のセミナーは、技術士補、技術士第一次試験合格者及び JABEE 修了予定者(修了者を含む)の計 9 名参加だった(事前応募は 16 名)。

参加者の技術部門は、電気電子、建設、機械、繊維だった。参加者の居住地は、東京都、神奈

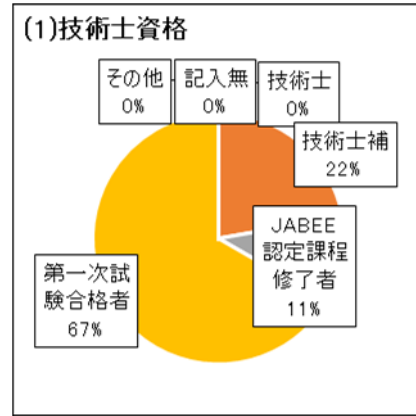


図 1 参加者ステータス

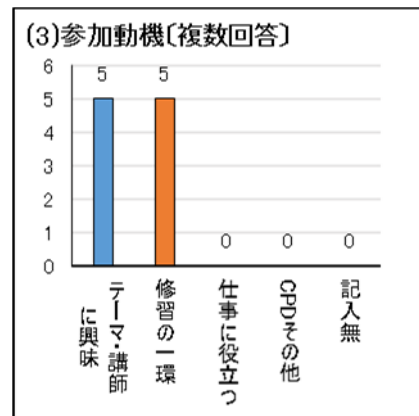


図 2 参加者動機(複数回答)

5. 研修会

司会阿部副委員長の開始アナウンスから始まり、石附委員長が開会挨拶を行った。以降記載順に進行した。

◆セミナー概要説明

阿部副委員長からセミナーの概要説明(研修会スケジュール、目的、課題説明)があり、今回のキャリアアップセミナーの狙いを説明された。即ち、参加者が技術士になる目的を明確にし、現状とのギャップをどのように埋めていか、各自が具体的、計画的に修習をどのように進め

るか実践するものであるかである。



写真1 阿部 副委員長 説明風景

◆キャリアプランの説明

続いて石附委員長より技術士のキャリアプランの説明があった。技術士制度、キャリア形成過程での技術士の位置づけ、技術士に求められる能力・資質と基本修習課題の解説である。修習技術者は16の資質能力(コンピテンシー)と「専門技術能力」「業務遂行能力」「行動原則」の理解・習得を主体的に行うことが期待されると伝えた。



写真2 石附委員長 説明風景

◆キャリアプランの説明補足

阿部副委員長より説明補足として、IPDにおける資質・能力と達成目標(資料配布)の説明と具体的な発揮事例(自身の業務経験)の紹介があった。日本の技術士制度と運用はIEAによる監査、連携を行っており、結果、海外の技術士資格とも整合するよう活動を進めていることが説明された。

◆グループ討議1

各自の技術士になる目的をキャリアアップシートに書き出し、グループ討議でお互いに意見交換することでより明確化する形で進めた。

参加者8名(開始時)をベテランCグループ、若手Bグループに分け、これに委員補佐2名を加えた5名2グループで進めた(午後参加1名はBグループに加えた)。

次に参加者はキャリアアップシートに不足する資質・能力をまとめ、それがなぜ重要か、いつまでに、どのようにしてそれを獲得するか、そして達成の基準はなにかを明確にした。

討議には適時ファシリテータ(石附委員長、阿部副委員長、野村副委員長など)も加わり、より具体化するよう促した。



写真3 グループ討議の風景

◆講演

「負けじ魂 ～技術士取得前の経験と取得後の自己革命～」

講師： 広田 憲亮 氏 (金属部門、機械部門)

グループ討議は継続していたが、定刻に広田講師による講演を実施した。

広田講師は現在金属部門と機械部門の2部門で技術士資格を有され、現在も博士号取得を目指すなど継続研鑽の姿勢を示された。

・技術士受験について

2002年に就職、金属材料の技術者として実務経験を積まれていたが、2011年の東北大地震後、社会貢献を強く意識されるようになり、技術士になる決意をされた。結果として2014年に金属部門合格、2017年に機械部門に合格された。

講演では受験決意、部門選択、受験勉強とそ

の時間捻出、モチベーションの維持など修習技術者に共通する課題を語られた。

業務である金属材料開発や加工技術から金属部門に挑戦したが、最初は何から手をつければ良いかわからない状態だった。先輩技術士のアドバイスもうまく飲み込めず、論文作成しても規定枚数に届かない状態だったこと、最初の受験で不合格通知を受け取ったときのモチベーション維持に苦慮されたこと、勉強時間捻出の工夫についての経験談があった。

受験生活を続けられた要因として、ご本人の決意のほか金属部会の活動や先輩技術士との交流が励みになったことも言及された。また金属部門合格後、新たな専門分野を開拓したいという意欲が沸き、またご祖父が機械部門の技術士だった繋がりから、機械部門にもチャレンジされた説明があった。不合格結果を見直し、改善して再挑戦した受験過程を説明された。

最後に修習技術者への励ましで結ばれた。



写真 4 広田講師 講演風景

◆昼食、グループ討議 2

講演後委員会で用意した昼食(弁当)をとりつつグループ討議を再開した。「キャリアプランの検討」をテーマに 3 つの基本修習課題(専門技術能力、業務遂行能力、行動原則)と 16 の資質・能力について、各自が目指す目標とギャップを書き出し、グループの目標を模造紙にまとめた。



写真 5 グループ討議 2 討議風景

◆グループ討議発表まとめ

●C グループ

模造紙の内容を項目ごとに交代して発表した。技術士になる目的は、社会的信用の獲得、管理技術士になりたい、定年後も仕事をしたいであった。そのために、コミュニケーション能力、国際的な適応力、技術業務のマネジメント、(技術の深化)が獲得する資質・能力で、傾聴、現地の人の考え方の理解、バランスの良い技術利用他の他具体的な指標と実現時期を挙げた。また生涯社会貢献したいとの意見があった。

質疑、意見は9件。コミュニケーション力の獲得方法や獲得時期に複数質問があった。またコミュニケーション力が会話前提だが、ビジネスでは報告書が主体なので文章によるものも重要との指摘があった。若手グループから定年後も仕事をしたいのかという問いがあった。

●B グループ

技術士になる目的、動機はまとめなかった。各自個別なので、あえてそうしたと説明があった。獲得する資質・能力は、専門知識、コミュニケーション力(年配、外国人に対し)、まなび、マインドだった。

質疑、意見は10件ほどだったが動機、能力獲得方法に対する質問の他、比較的意見が多かった。

修習委員からは専門知識の獲得方法や弱みの強化、報告書のまとめ方などについて意見があった。プレゼンはCグループが分かりやすいという指摘があった。



写真 7 野村副委員長講評風景

6. 情報交流会

221会議室に場所を移し交流会を行った。参加者は10名ほどで小規模だったが、広田講師にもご参加頂いて、よい雰囲気楽しんだ。当初予定の19:30を超過し20:00まで歓談が進んだ。新規参加者に声がけする修習技術者もいたり、発表研究会への参加に意欲を示す参加者もいて次回への参加が期待できるよい機会となった。



写真 8 情報交流会風景

以 上